天保十一庚子

繪圖鬼

西行

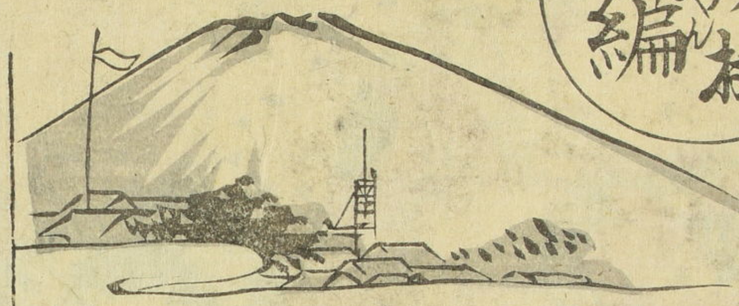
へ13
3814
3

へ13
3814
4

へ 13
3814
3

門 ヘ13
3814
巻 3

名所杖編二



外題改 繪圖名勝杖二編 京都東山見 西行 上冊

天保子春 作
喜鶴堂 刻

○井之能雷雲 妻美雲 一子京丸

正直のかうべに神をやどすてふみち行ば人もまもらん

淑徳の王梅の如く馥しく節貞の金石よ似て堅く茲を以て天の照臨を得て七家を保つ貞烈婦道の亀鑑たり

○才一門平もどの版

▲ゆち川まんご見えのちまけのおもあ井のゑもらうえせぶれ門平あり又がまをよすつけておる、かち雨もうの金杖村のあそをおそみおせよとそうかーそのおとつれをおつのよあしするさめのゆのうつひつうとやさのよぶそかえぎとおのふおぐえるおれみおぐうまず●がま平そびいぐうじや「上」こ吉でござりまま井さら五年とのようこうくうる村のあんおとくつけさおろあやうこあおをそんてうしろけさよろゆくをたそうけふもふつまもるりもふんをくきうまこめをさー立さうんとにこせーがそあむしーよみてもるきてのあめおおとにとのふまそうこうくてれおうこがひもわんかとあおうとのためお明へ

(一)村のまんがかさそでごらんのこわらっちーそのくれるわ

(二)「えてアかんちんくおづきたるけさそくそくのこやりそろひくそそんちろくくらひてろうさのるさをよろうそうぎそふさへざろそこりやぎま平ようぎさのさろひへを百あちらえどのへもんろくくさりはふろひよさろくそえ「えのくそれいありがようぎさるまれく(三)

(四)あとーおいたれか村のまんろうせぐれろくもの丸母のそやさたろくさこれまんやのこーぐせぐれこえとものこーぐえれいまろうえねちろれて

(五)うれーやそんるさそるけれがふるえもろ百もありがてくくもの村のまんがまんざへりあとてありーそん王丸がんろそろ

三
ちゝと目をつぶりまして
ぬきあはせて
切つてをひらりとにびのきあのれ奉
ぎんまるむくひするぞうちするひきやうまんまるけよのかとまを
三
名所村二ノ
四
小つきまそれがまの
水なんのそのあ
五

㊀二つ三つの時
こゝろおとなびて
村のわんぱくどもと
あそばせられるるね
のれ村のしんぞう
うれしるおもよ
ありてあり
ろうろを
まうろうろ
あふやの
ろう主れを
ちのうく
きとらひ
まぐさ面
ろれの
ろうろ主
丸とうらん
とうけつこ
せーと無が
あーとあ
うくろと
あれしる
上のまる
ひをんをも
もせてうろびく
なつてうろーあうろ
て村のをとの
をこんとぐけひたとる

㊁ぬれぬ
さいとそそぬもも
いとあまうろのさうろもで
ろうぐんろあうろさも
一よいあうくうろさあも
あぐうろせんでうろうろう
ろさんぐうとうろあくあー
ゆとちくうろくるろ
ろうとあうれがろの
きなつぐーうろけぐうろ
めーいまそて
みやいろいで

べーとあやうきあ人
あのよこでうちり
りせあも
そうさまうろの
やこむものこく
せくせうりつて
きうくもとうりーもつて
のをさうりまひあがる
男かうをやこうのの
ろれがるのの火紀を
ろさまでなうれるをを
みけてうちんまうろ
ろそーうれがい井のくまが
けうのうまろそーまや
あやーきすくうろふろ
じやトこみけられて
ぐまろのせこくろり
ろやくる村のまんが
せうれうれがさまぐのの
ふてきもひやりとせーが
さけよろ多ひるふりをを
るーこれいんはのか
さるでちくんりでたべ
多ひまーさまちでるも
ざふふでうくうせのんご
そとこうりるそどよ
そこうちうぐうくく
ろりぐんうろこの
ろやりろれねぎこ㊀

㊂あぐるいるの
九つの㊂ごあんく
よのさこえよ
人をのろうあ㊂二つとうるおり
井のくまのん車ぐま車うるを
ろうそ村のまんをうこせーれ
とれのまうよをのれもんぐま
車ぐうろふかいてんろうの
きうくまりまひあがる
かま車ぐ村のををまこまり
みせーいあれうれうれ
よろいでーうあうろ
ぎまる㊂ーんのうつけ
ろりうれ多ろよ
てんこうろうの
ろうをあろの
みやそんやを
ぐまうろ
きうんろれうも
つけふあ
うさみの
さびとあ
いてんおうつの
るをこ

のぎょうぎあさましやそのあいさつをみれば

第二 こんまいの順

▲それはさておきこれ又こがの
ばばあうなをめけ花井さら
五郎がうろうろちもそこまりのまり
かりもめでくくをを日とそろび
とてどろさんさまるまぶらやの平
だのどころ下女のあさん
がそのくれもんをん
よきうぐうこれ
ちなんどのあらあ
てよまいひゆう
むんのきゆう
よこちのこえ
王さまおうち
こえでをおせを
まてこちたっのり
るえだのゆうえて
あごめんさだう
ちょまうあらう
でへ「それがのの
おそうどの井さう
五くさまへお内うごう
るのとそまちせんのあん

ひろ井四っ弥太さまの
ひろんをさるそれりく
おそろ
めいるおうこ
そろるらうこさる
さうもやらうこう
そうまうらのやーさ
さのせんうこちざー
さまちまもろをあくび
っるまれぬいきゆうさる
のやうろうのトさう
うへあがやう
けらへとりや
お中へもの
ようのを
きのの
をーう
ぞえると
「そんのちゆう
あんーやそ▲

▲そのく
さうくらそ
ろうきごく
らまへゆう
吸ひ

▼あるひとくるまやへ人をまねこのだいごところざしきに
かやく金ひき引くるふるうちの井さう五りまちざよらうろうひろ井四つやをかつまのおやめそのれうりやうてこがのんくたりとつくれてあるそくびけり
▲やうてこがのおりやがむすめ
そのひめまうさまあかやくまのこうろ
のまおうさまえけるそれさうのおやめうさまのかしきそうひきそ
あくのさうきうさまりうひけり

其二

▲あるめこまちふきうそくの
まのごさうつきのあるくそのひ
けれでなろうどの井さう五りそん玉丸そ
こりるいまち
井さうのおやめ
このえんひめの
うどとそりそ
ひろごうきそる
こん玉丸とひろひ
あうせそさふうせ
女中うえこふふきの
ごのそうろんくるも
ふりくよさんく九どを
ばめんとさるをしも
すきうつきあるくまさ
ま五つ井しまの内より
とあろうれが井さう
五くいをうれが井さう
めとー

二の巻へ

五の巻分

くくふんをそのくろふ
へごそのかうろうさうとひそ兎
よそをひをさうろ小そぶろ
ものとうもろくろ
上下ろづくとたち
そしハるそのの
ろんとろそ
れがうち月
んづうの一そく
うさんの二うてるうろ井さう
五年いきぐりのいふてるうろどの
ぜりやうろうもあまそとや
さうそ「ちんいのうともれるるハ小さきとそのち月ろのりつひりのくんモ花とやうのせーのえ
おやんきうつふとうち月んぐんどのうるへあつをこれのうそんぐんそ王ろのくえそむすびそ王どのもうくもあのるれいがおせうるんしてるろうむしあおいうとれもせんこのむうふへのさんのつふりへのうもそのえいのせがれう王丸よりきてこれいもこそれのまんざのちろくいとめれハ

（三）

小さんぐとやうやうス廿八百あそうくと仏ものあげもけらうのりもちんじとあがやの

（六）

京山作
國貞画

清浄精製 白妙

此ところくへいう泡ど色の黒き方少しも男女かぎらず又いろ〳〵なる粉なりふろの中へおすこしを入れバ色をバ雪のごとくなめらかにしてまろふー年若くなり肌きめの細かなるを付ことをバ不測の功能あれバ引ひて其功能を知給ふべし

本家調合所 江戸中橋廣小路町 書物屋 北林堂 西宮弥兵衛

へ13
3814
4

門へ13
[illegible]
38-14
6

繪本 梅ヶ岡見 涼水

山吹の巻

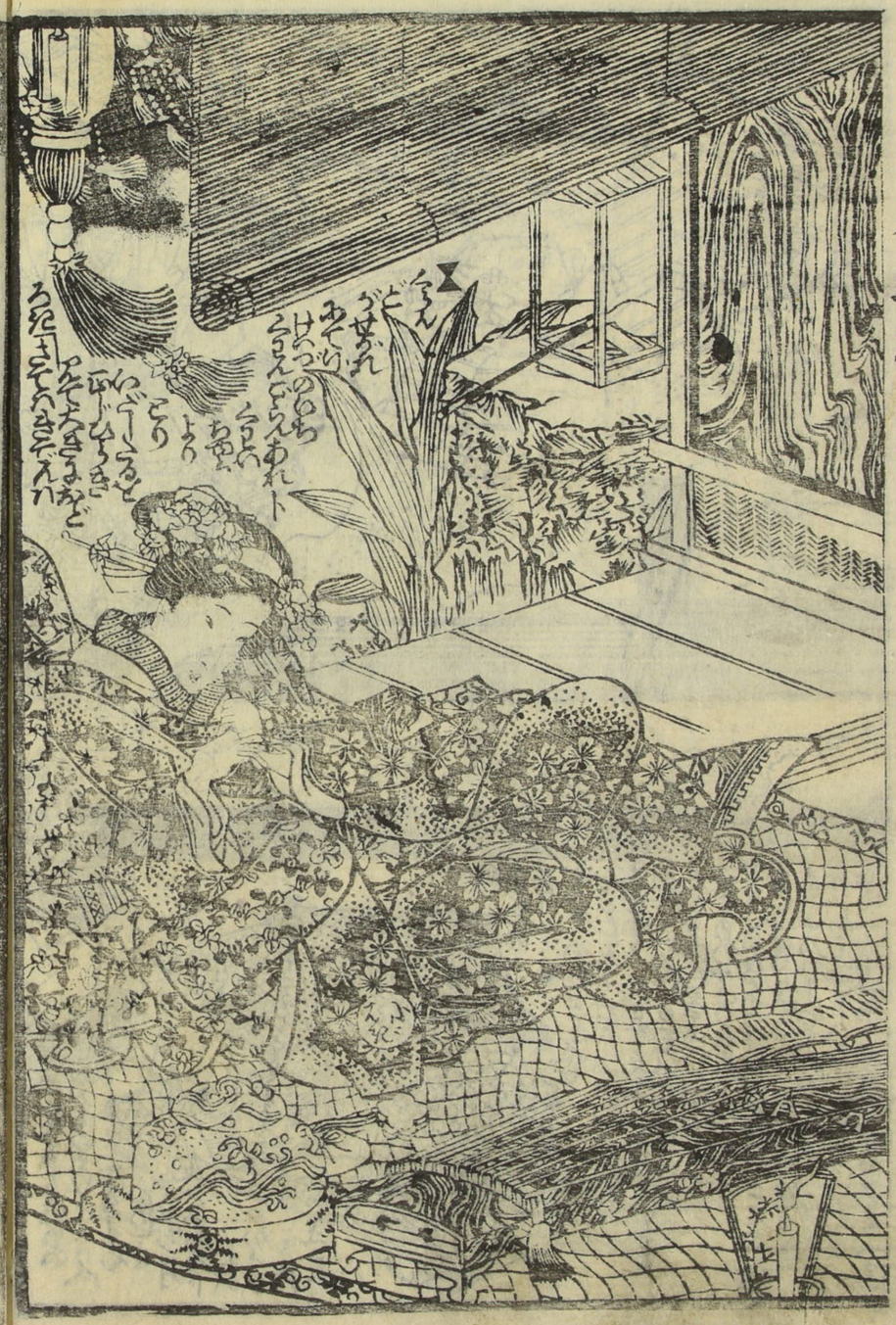
山東菴京山作

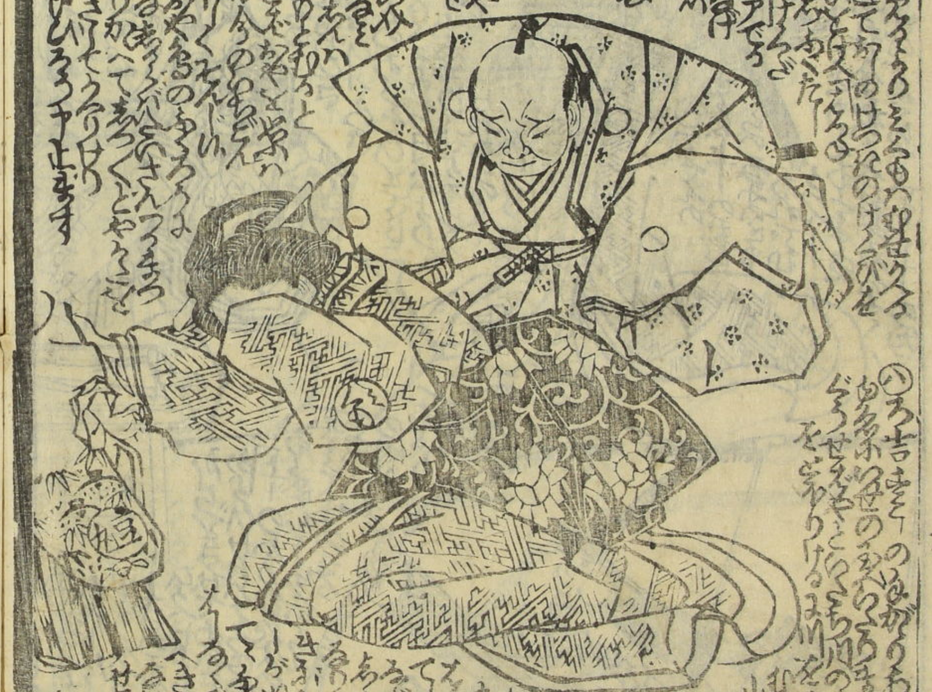
多蝶樓國貞畫

春雀堂

佐野屋壽梓

第九 三作出世の段 小えびがみきその一





(一)
(二)
(三)
(四)
(五)
(六)
(七)

(一)
(二)
(三)
(四)
(五)
(六)
(七)

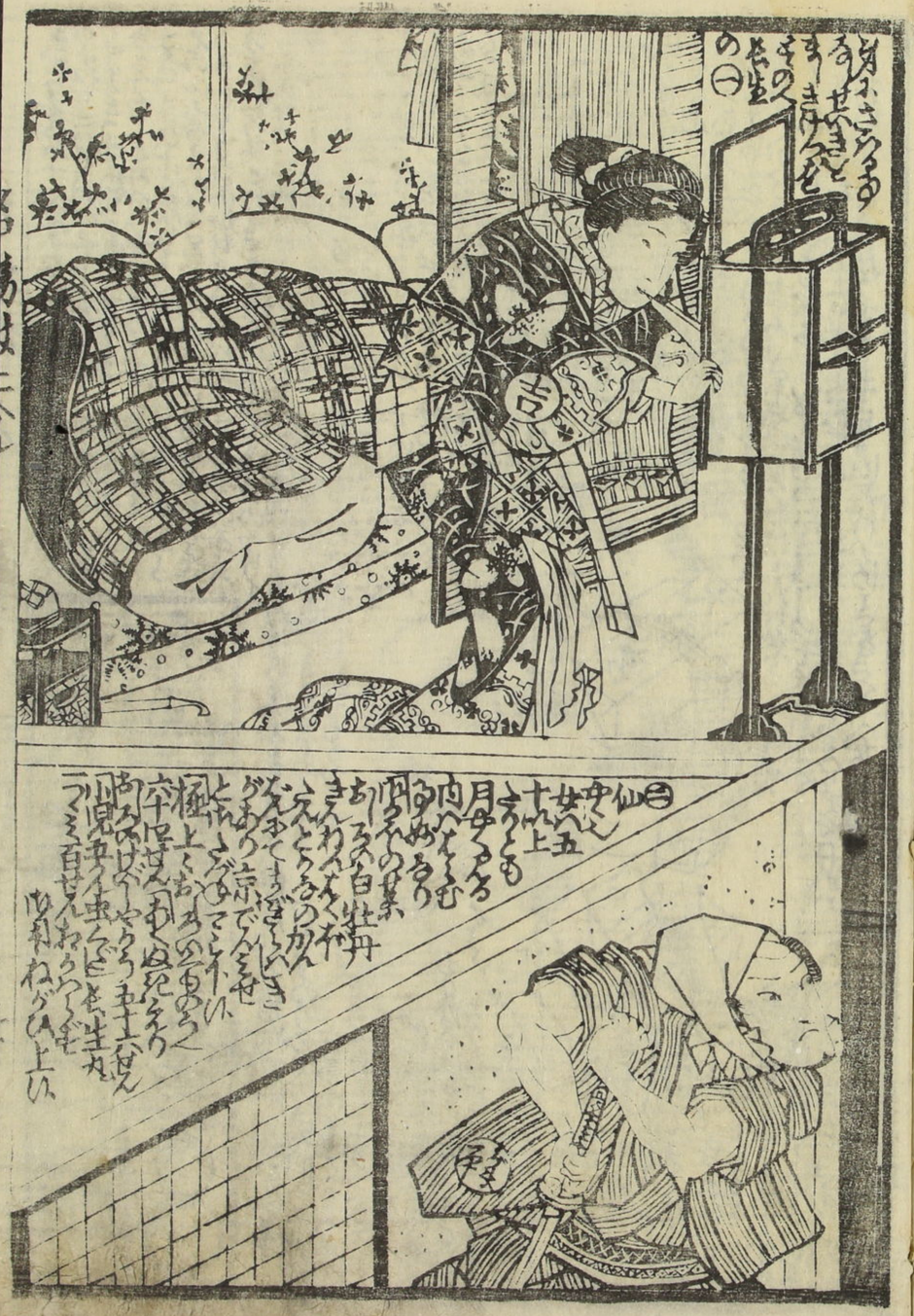
(二)さるどんのくらうおもしろく

いくらべたべてもみてもよひがろ吉からうばやおなじ山へのぼりてみろおまへはうんとうへだてきちうふやーてうちをるバーかちうばう「のびくばうそだろうばう山のうさぎだろうばうこのやつこのやつこのやつけーとをものがりおろしのさるどんはやるこちをそらうまるおろうのふそうけるもろとおりくこもせまくのべきもうおへやうそもまろうとおとろうのこてそとそとまろくのがやーよばまろのつまのやうばうのうばうこのやつろ

そてとんえければろ吉のうやうなりめのおよめのこ
もちぬ
なうふんべつぐるこちもあるべーくちのくさえいわれくこさぬもむかの西平ぐつまくるハめりのみそるんはい山のむうふかはるうまくくらい西ふわうこのめの公日のくらんとそる西こうるくこがまふ
そてもんべーはいかまふ
けるよ日もやくうまれとそるろ人のこそしてそこまきるろさそこにとおものつぐのとろうろげまろりけよめりろどもあまべふんたうりもとへまころがまふ
そこやうれくいかや人かれるのこうのへトのりよれくいかや人かれるのこうおまへのうえさんのせんおいろさのまえ久のさてかうまくぐこちうふうとちさうくんまるまそのとうんまるまくぐぶんてやどやのうえのそぎけり

和漢印章考
古今婦人之風俗を記ある書
女雛考近刻
北越雪譜
初編三巻
牧之作京山
刑定京水重
吉

吉


吉

敦

傾城三國志 初編より四編マデ 業平作

初編 外題 繪圖名所枝ノ折 山東庵京山作

山吹の巻 櫻ヶ岡 繪圖見西行 二編三編 新板業平作

傾城三國志 後編 墨川亭雪麿作

香蝶樓國貞画

西国奇談 月乙夜神樂 三編 全六冊 五柳亭徳升作

一勇齋國芳画

東國奇談 月乙夜櫻 一編 全六冊 五柳亭徳升作

一勇齋國芳画

空俗俠素群談 全十冊 亭々舎可有作

歌川國貞画

今昔傳說苑 墨川亭雪麿作

全四冊 一勇齋國芳画

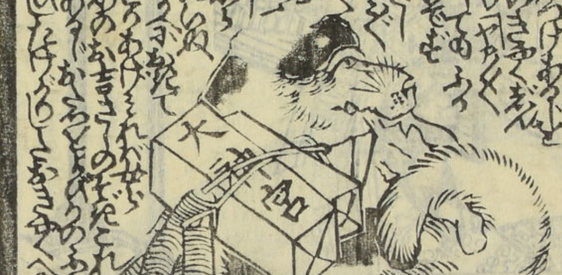
極彩論竹取物語 墨川亭雪麿作

全四冊 五雲亭貞秀画

地本繪草紙問屋

江戸芝神明前二軒町

喜鶴堂佐野屋喜兵衛板



山東庵京山作

香蝶樓國貞画 8